

# タスク先行型ロールプレイ教材の作り方

**講師：山内 博之 氏**  
(実践女子大学文学部国文学科教授)

**開催日時：2017年1月21日(土) 15:00 - 17:00**

**会場：上智大学四谷キャンパス 2号館 4階 2-414 教室**

**対象：日本語・言語教育全般に関心のある教員および学生(学外可)**

**参加方法：事前申込不要・参加費無料**

(会場定員に達し次第、受付を終了させていただきますのでご了承ください)

会話教育には、学習者にタスク(例えばロールプレイ)を先に行わせてから、そのタスクに必要な表現を教えるという「タスク先行型」の教え方があります。学習者が興味を持ちそうな、あるいは、実際に遭遇しそうな場面についてのロールカードを作成して授業で使用するのには、非常に効果的です。しかし、そこで、市販のテキストを使用してしまうと、授業がうまくいかないことが多いです。なぜなら、市販のテキストには、自分のクラスの学習者が真に必要とするタスクが載っているとは限らないからです。やはり、タスクは、自分の学習者に合ったものを教師が自作し、そのクラスのニーズに合った順序で提出していくのが望ましいです。

また、市販のテキストを使うと、学ぶべき表現も掲載されているため、それらを先に見てしまうと、何とかタスクを遂行しようと思って、自分の持つすべての能力を駆使して話すというドキドキ感がなくなってしまいます。つまり、タスク先行型アプローチの良さが半減してしまうということです。本講演会では、タスク先行型ロールプレイ教材の作り方について解説いたします。

## 講演者紹介

略歴：専門は日本語教育。学部・大学院時代の専門は経済学であったが、  
どういうわけか、大阪の日本語学校で日本語を教え始める。3年半ほど勤務したころ、その学校が倒産・廃校となり、途方にくれたが、京都外国語大学の留学生別科で、運よく非常勤講師の職を得ることができた。その後、岡山大学文学部専任講師、実践女子大学文学部国文学科助教授を経て、現職。編著書に、『[新版] ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社)、『実践日本語教育スタンダード』(ひつじ書房)、『プロフィেশンシーから見た日本語教育文法』(ひつじ書房)、『誰よりもキミが好き！日本語力を磨く二義文クイズ』(アルク)、『OPIの考え方に基づいた日本語教授法—話す能力を高めるために—』(ひつじ書房)などがある。

